健康・医療

いつでもどこでも インターネットから 自分の医療情報を入手

医療情報は自身で管理する時代

ブロードバンド環境の整備に伴い、医療の分野では診療情報の共有化の重要性が増している。健康・医療・福祉分野情報化プロジェクト「どこカル・ネット」(http://www.dokokaru.net/)を運営する、NPO法人日本サスティナブル・コミュニティ・センターなど4社は、医療情報を電子化・一元管理し、いつでも閲覧できる医療サービス「**ポケットカルテ**」を共同開発。2008年秋から本サービスを無料で提供している。

ポケットカルテを利用すれば、会員はPHSやパソコンなどのインターネット端末を使って自ら医療情報を管理することができ、それをカルテとして提出することで初診時の診察も効率的に受けられる。また、医療機関側も、患者の病歴などを容易かつ簡単に把握できるため、救急現場などでも迅速な現場処置が可能になる。

独立行政法人国立病院機構
京都医療センター 医療情報部長／
情報化推進研究室長／京都大学医学博士
北岡有喜氏 *Kitaoka Yuki*

「ポケットカルテ」
➔http://pocketkarte.net/
「ポケットカルテ」Webサイトで会員登録すると、IDとパスワードが発行され、パソコンかPHSから各種機能を利用できる。サンプルにしたがって特定検診のファイルと共に、過去の検診(紙データ)を入力フォームに記入していくと、新しい電子カルテとしてカルテ一覧に追加される。カルテはいつでもどこでも閲覧することができる。

システム導入のメリットとは

自身で管理ができるだけでなく、それ以上に大きな意義を持つのが、情報の非対称性の解消だ。医療の世界では、医療機関側と患者との間に、保持する情報の格差が生まれやすく、それが医療不信につながることも珍しくない。産科医としての本職の傍ら、このサービスの実用化に長年尽力してきた北岡有喜氏は、「電子カルテ化することで、担当医師の診療方針などについてほかの医師と意見交換しやすくなります。まさにこれからは自分の医療情報は自分で管理する時代。それが個人ごとに適した医療や医療費削減につながっていくはずです」と、力説する。

1人ひとりの健康をナビゲート

2008年4月以降、行政指導による特定健診・特定保健指導が40～74歳の医療保険加入者に義務付けられ、1年に一度、検診結果を受け取ることになる。「これを機に、入院記録や検査結果などの過去の情報も電子データ化・一元管理していけば、時系列で自分の健康管理ができるはずです。また、将来的には、登録データの匿名でのデータベース化や、性別や年齢、症状などから自分の病気を検索できるナビゲーション機能、医師からの個別アドバイスなども付加価値サービスとして検討しています」(北岡氏)。